

第 37 回学会認定・自己血輸血看護師認定試験 受験申請の案内

2026 年 3 月 12 日

学会認定・自己血輸血医師看護師制度
協議会会長 脇本信博

- 申請前に本案内の全文を熟読後, 印刷・保管ください。
- PC や IT に慣れていない方は院内の詳しい方(IT 部門や臨床検査技師あるいは事務の方など)に事前に相談ください。
やむを得ない場合には事務局への電話(03-6454-3306)も可とします。

項目		頁
1	第37回 認定試験の骨子	P 2
2	医師看護師制度協議会事務局連絡先・振込口座	P 2-3
3	認定試験受験資格	P 3
4	申請前の手続き	P 3-4
5	受験申請書類の提出	P 4 -5
6	認定試験スケジュール	P 5
7	受験申請に際してのPC・メールに関する重要注意事項	P 6
8	費用の支払い	P 6-7
9	資格審査と受験票の送付	P 7
10	合同講義	P 7-8
11	筆記試験	P 8
12	認定証の授与	P 8
13-1	申請書類のアップロードに関する補足説明	P 8-9
13-2	申請書類記載上の注意に関する補足説明	P 9-11
14	学会認定・自己血輸血医師看護師制度の趣旨と目的	P 11
15	自己血輸血担当医師	P 11
16	カリキュラム	P 12
17	必須指定参考書および関連文献	P 12-14

1. 第 37 回 認定試験の骨子

- 受験者の時間的・経済的負担を配慮し、講義は自宅または職場で受講可能、筆記試験のみ試験会場で行う(宿泊は最大でも2日のみ)。受験資格として自己血輸血の実施経験は不要で、今後自己血輸血を始める方でも受験できます。
試験問題も通常よりも少ないため合格のチャンスが高く、その上、皆様の受験をお待ちいたします。
- **認定試験スケジュール:**「受験申請」→「Zoom ミーティング」→「Zoom での合同講義」→「会場(リンクステーションホール青森(青森市文化会館))での筆記試験」の順で行う。
- **受験申請:様式 1 の Web アップロード**
2026 年 3 月 13 日(金)正午～2026 年 5 月 1 日(金) 23 時 59 分
アップロード後すぐに協議会事務局「jikoketsu-nintei@jsat.jp」へ「申請書類のアップロード完了および Zoom ミーティング日時」をメール送信すること。折り返し、事務局から受験番号を連絡します。
様式 1 の Web アップロードの方法:「5. 受験申請書類の提出(4 頁)」を参照。
- **申請書類(様式 1 を含むすべての書類)の郵送期限**
2026 年 5 月 21 日(木)必着
注意:様式 1 は Web アップロードと郵送のいずれも必要
- **Zoom 接続ミーティング:認定試験の注意を行う。**
2026 年 5 月 22 日(金曜;19 時～20 時半), 5 月 23 日(土曜;17 時～18 時半), 5 月 24 日(日曜;17 時～18 時半)のいずれか 1 日を選択し、様式 1 アップロード完了報告時のメール本文に記載のこと。
- **合同講義:**2026 年 6 月 9 日(火曜;8 時～20 時), 6 月 10 日(水曜;8 時～18 時)
- **筆記試験:**2026 年 6 月 11 日(木)は移動日
日時:6 月 12 日(金曜;午前 8 時～12 時)
会場:リンクステーションホール青森(青森市文化会館) 1F 小会議室(〒030-0812 青森市堤町 1-4-1)
- **筆記試験後の学術総会および教育セミナー参加:**2026 年 6 月 12 日(金曜;12 時～17 時)への参加を原則とします。
- 筆記試験で宿泊が必要な場合は各自予約、費用は各自負担
- **合同講義・筆記試験の詳細な開始・終了時間と会場図:**後日発表します。
- **受験申請者が 9 名以下の場合:**認定試験は延期または中止とする。受験申請費用は次回認定試験に持ち越すか受験者に返還するかは事務局と受験者で相談して決定する。

2. 医師看護師制度協議会事務局・振込口座

- **日本自己血輸血・周術期輸血学会ホームページ URL:**<https://www.jsat.jp/>
- **学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会事務局 連絡先(メールに限る)**
郵送宛て先:〒114-0022 東京都北区王子本町 1-24-7 メゾンドール 102 号
学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会 事務局 宛て
E-mail 宛て先:協議会会長 脇本信博<jikoketsu-nintei@jsat.jp>

● **学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会(医師看護師協議会)口座**

銀行名: 三菱 UFJ 銀行 店名: 王子(オウジ)支店(店番 175)

口座種類: 普通口座 口座番号: 0106265

口座名: イシカンゴシキョウキカイ ワキモ ノブヒロ

注意: 日本自己血輸血・周術期輸血学会口座と違うので注意すること。

振込み時は申請者の氏名のみ記載すること。

3. 認定試験受験資格

● **受験者個人の受験資格(必須条件)**

1) **臨床経験: 2年以上の看護師**

准看護師の受験は認めない。臨床経験には准看護師の経験を含んでもよい。

赤十字血液センターでの業務も臨床経験に含むものとする。

2) **自己血輸血業務経験:** 自己血輸血(貯血式・回収式・希釈式)の経験は問わない。

今後、以下の業務を行う予定のある方も対象とする。

- 1) 自己血輸血, 2) 病室での輸血業務, 3) 赤十字血液センターでの自己血輸血の指導,
- 4) 自己末梢血幹細胞採取, など

3) **必須指定参考書の保有**

各自、自分の参考書の保有が必要(12 頁参照)。

4) **教育セミナーや協議会指定セミナー受講証明書の保有**

日本自己血輸血・周術期輸血学会(以下、日本自己血輸血学会)教育セミナーあるいは自己血輸血医師看護師制度協議会指定セミナー(以下、協議会指定セミナー)を受講し、受講証明書を1部以上保有していること

受講証明書を保有していない方は 2026 年 6 月 12-13 日に開催される第 39 回日本自己血輸血学会学術総会の教育セミナーを受講すること(オンデマンド配信の視聴を含む。日程・内容は、後日、日本自己血輸血学会ホームページに掲載)。

● **所属施設の必須条件**

1) 日本自己血輸血学会 貯血式自己血輸血実施指針(貯血式ガイドライン 2025)を遵守していること。あるいは遵守するよう努力していること。

2) 施設に自己血輸血担当医師(日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会のいずれかの会員)がいること(学会認定・自己血輸血責任医師も可)(11 頁参照)

4. 申請前の手続き: 1)~5)の順に手続きをすること

1) **入会手続き**

申請者本人および自己血輸血担当医師(学会認定・自己血輸血責任医師を含む)は日本自己血輸血学会または日本輸血・細胞治療学会への入会手続きを完了すること

日本自己血輸血学会入会案内は下記 URL や QR コードを参照のこと。

< https://www.jsat.jp/jsat_web/nyukaiannai_syousai.html >



2) **受験申請費用 1 万円の振込み**

1 万円を医師看護師制度協議会口座へ振り込む(臨床輸血看護師やアフレーシスナーズの認定取得者は 5,000 円)。(振込先は 3 頁に掲載)

3) **PC, メール用の用意**: 詳細は 6 頁に掲載

4) **Zoom アプリのダウンロード**

<<http://professionalmarketing.jp/how-to-zoom2>> から Zoom アプリ(無料版)をダウンロードしておくこと。

5) **受験申請書類の提出準備**

PC や IT に慣れていない方は Zoom ミーティングまでに 院内の詳しい方(IT 部門や臨床検査技師あるいは事務の方など)に相談すること。

5. 受験申請書類の提出

1) **アップロードする書類(ワード文書のみ)**: 様式 1(顔写真なし, 押印なし)(郵送するものは後述)

● **アップロード期間**: 2026 年 3 月 13 日(金)正午~2026 年 5 月 1 日(金) 23 時 59 分

● **申請書類の用意**

日本自己血輸血学会ホームページの学会認定・自己血輸血医師看護師制度に掲載している 申請書類(ワード文書; 様式 1)をダウンロード

学会認定・自己血輸血医師看護師制度: 下記 URL

https://www.jsat.jp/jsat_web/down_load/gakkainintei05_02.html



● **ダウンロードしたワード文書の全項目に電子入力(手書き不可)**

ワード文書のアップロード(申請書類ファイルをメールに添付しないこと)

下記の日本自己血輸血学会「ファイル登録サイト」へワード文書のままアップロード(ドラッグ & ドロップ)する。アップロード時には様式 1 に顔写真や押印は不要

(アップロードの方法は 8-9 頁の補足説明も参照)

<https://app.box.com/f/9e74d3013b1b43c9bc71034a89bace96>



● **アップロード後の受験者からのメール送信**

アップロード後すぐに, 協議会事務局「jikoketsu-nintei@jsat.jp」へ「**申請書類のアップロード完了**」をメール送信すること(Zoom ミーティングの日程も併せて報告すること)。

Zoom ミーティングの日程: 2026 年 5 月 22 日(金曜; 19 時~20 時半), 5 月 23 日(土曜; 17 時~18 時半), 5 月 24 日(日曜; 17 時~18 時半)のいずれか 1 日

メール文末に施設名・氏名記載のこと。また, 様式 1 に記載したメールアドレスと同じメールを使用のこと。(メールについては 5-6 頁の注意を参照すること)。

● **事務局からのアップロード確認メール**

受験者からのアップロード完了メールに事務局から 3-4 日以内に「**受験番号**」をメール送信する。「アップロード確認メール」が届かない場合は, 事務局へメールで問い合わせること。

- 2) **郵送する書類**: 様式 1 (顔写真あり, 押印あり), 様式 2-1~2-3, セミナーの受講証明書, 看護師免許証, 受験申請費用振込用紙控え, 他の認定制度の認定証, 空のレターパックライト(9-11 頁の 13-2 申請書類類記載上の注意に関する補足説明も参照のこと)

様式 1 をアップロード後 2~3 日以内に郵送のこと(締切り 2026 年 5 月 21 日(木); 必着)。

郵送書類はすべて A4 判にし, 次頁の書類をまとめて日本郵便のレターパックライト(430 円)で郵送すること。レターパックライト郵送時には品名欄に受験番号と第 37 回 認定試験申請書類を記載のこと。

レターパックプラス(600 円)や書留, 普通郵便での郵送は不可!!!

● **様式 1**

アップロードしたものとは別に, 様式 1 にカラーの顔写真貼付, 押印したもの(カラーコピー)を郵送すること。**(様式 1 はアップロードとともに郵送が必要)。**

● **様式 2-1, 2-2, 2-3**

手書きの自署と押印が必要, **様式 2-1 は公印であることに注意!!!**

● **教育セミナーや協議会指定セミナーの受講証明書**

A4 サイズへ拡大のこと。

受講証明書を保有していない者は 2026 年 6 月 12-13 日に開催される第 39 回日本自己血輸血学会学術総会の教育セミナー(オンデマンド配信の視聴を含む。内容・日程は、後日、日本自己血輸血学会ホームページに掲載)を受講すれば受講証明書を保有しているものとみなす。

その場合、「第 39 回日本自己血輸血学会学術総会の教育セミナー受講予定」と記載した A4 文書の提出が必要(書式は任意とするが, 施設名と氏名を記載すること)。

● **看護師免許証のコピー(資格取得者は助産師免許証コピーも郵送)**

A4 サイズに縮小のこと。

改姓あるいは紛失などで裏面に記載がある場合は裏面のコピーも必要。

● **受験申請費用振込用紙控え(ご利用明細書)**

A4 サイズへ拡大のこと。

● **臨床輸血看護師やアフレーションナーズの認定取得者**

受験申請費用: 5,000 円で受験する者は認定証の写し(A4 サイズ)を郵送のこと。

● **空のレターパックライト 1 部**

空のレターパックライト(430 円, 1 枚, 2 つ折り)も併せて郵送のこと。

記載事項

・お届け先: 申請者の〒, 住所, (施設送付の場合のみ施設名・部署名), 氏名, 電話番号

・ご依頼主: 記載不要

・品名: 認定証送付

・ご依頼主様保管用シール: 「第 37 回 認定試験・受験番号・氏名」を記入。はがさないこと。

6. **認定試験スケジュールおよび筆記試験会場案内図**

日本自己血輸血学会ホームページに掲載予定。

7. 受験申請に際しての PC・メールに関する重要注意事項

● メールアドレスに関する原則

《重要な注意》

様式 1 への記載時, アップロード後の送信時, 事務局への問い合わせ時および Zoom ミーティング時には同一のメールアドレスを使用のこと。すべて同一のメールアドレスであること

● PC の原則 (Zoom ミーティング)

- 1) マイクとカメラが装着されている PC のみ可とし, スマホは不可とする。タブレットは印刷可能な場合は可とする。
- 2) 原則として, 個人や家族の PC を使用すること(職場の共用 PC も個人専用ができれば可)。
- 3) 同一施設から 2 名以上が受験する場合, 複数の受験者が同じ PC を共用することは不可。
- 4) Zoom ミーティング時のみ PC 操作の得意な方の同席を認める。
合同講義時には他人の同席は認めない。違反の場合は不合格。
- 5) Zoom ミーティングの招待メールは, Zoom ミーティング当日に送信する。

● メールアドレスについての注意

● 使用可能なメールアドレスの環境

- 1) 確実に <jikoketsu-nintei@jsat.jp> からのメールを受信できること。
- 2) 添付ファイルを印刷できる環境があること。

● 使用可能なメールアドレス

- 1) 個人の PC メールアドレスが原則である。
Zoom ミーティングなどで同じメールアドレスを使用しなければならない。
- 2) Outlook メール(〇〇〇〇@outlook.jp)は使用禁止とする。!!!
- 3) 使用を推奨しないメールアドレス
一斉送信の際, Yahoo メール, Gmail, Hotmail などの無料のメールアドレスは通信できない場合があるので推奨しないが禁止ではない。

● 一斉送信への対応

- 1) 申請されたメールアドレスに事務局から「申請受領メール」や「受験票」および「種々の連絡通信」を一斉送信する。
メーラーの初期設定で一斉送信を拒否する設定になっている場合には必ず解除すること。

● 受信確認メールについて

- 1) 申請後は事務局からの連絡はメールで行うので 毎日メール受信をチェックすること。
- 2) 返信メールを事務局から求められる場合には, 遅くとも翌日までに, 本人が返信メールを送信すること(関係者・代理人からの返信は認めない)。

8. 費用の支払い

医師看護師協議会口座へ振込む(学会口座とは違う)。振込手数料は申請者が負担ください。
原則として, 領収書は発行しない。振込用紙控え(ご利用明細書)を代用ください。

* 受験申請費用: 1 万円 (Web 申請前に納入!!!)

臨床輸血看護師やアフエレーシスナースの認定取得者は 5,000 円を納入する。
その場合は認定証の写しを提出しなければならない。

*** 合同講義(1万5千円)・筆記試験受験費用(1万円):合計2万5千円
(資格審査合格通知後,事務局からの指示後に納入)**

他の認定取得者は合同講義費用として1万円,受験費用として1万円,合計2万円を納入。

*** 登録料:5千円(認定試験合格の通知後,事務局からの指示後に納入)**

*** 総受験費用(受験申請前,資格審査合格後,認定試験合格後の3回に分けて振り込むこと。**

臨床輸血看護師やアフエレーシスナースの認定取得者以外の方:総額4万円

認定取得者:総額3万円

*** 課税について**

①受験申請費用,②合同講義・筆記試験受験費用,③登録料はいずれも消費税はすべて10%課税(内税)ですが、インボイス適用外です(「学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会」そのものがインボイス適用外です)。

● **費用の返還**

いったん振込んだ費用は原則として返還しない。ただし、外傷・疾病・妊娠・分娩、自然災害などの正当な理由があり、協議会が認める場合は返還する。

なお、第37回認定試験受験申請者が9名以下の場合には費用を次回認定試験に持ち越すか、受験者に返還するかは、事務局と受験者で相談して決める。

● **資格審査あるいは筆記試験の不合格者**

次回受験の際に、新たに受験申請(申請費用振込み含む)から行う必要がある。

● 本人の都合で合同講義と筆記試験を辞退する場合は、受験資格を失うものとする。原則として振り込んだ費用は返却しない。

9. 資格審査と受験票の送付

1) 資格審査と結果通知

- 資格審査は申請書類が届いた順に行い、審査合格の順に受験票を順次メールで送信する。申請書類の不備がある場合には、事務局からメールまたは電話で問い合わせる。
- **可及的速やかに様式1をアップロードすること。**会場の許容人数の関係から、資格審査に合格した場合でも、筆記試験の受験資格が与えられない場合もある。受験資格を取得できなかった場合には、次回以降、優先的に筆記試験を受験できるものとする。その場合、新たな申請手続きを行う必要はない。
- **2026年5月29日(金)**になっても受験票が届かない方はメールで連絡すること。

2) 事務局から送付した受験票への対応

- 受験票には顔写真(カラー)を貼付け、合同講義・筆記試験会場に用意すること。
- 合同講義・筆記試験会場へは受験票のほかに運転免許証やパスポートあるいはマイナンバーカードなど顔写真の付いた公的な証明書を持参すること。顔写真のないものは認めない。
- 上記の公的なカードのない方は現在勤務先の施設の顔写真の付いた身分証明書も可とする。

10. 合同講義

- 合同講義で使用するテキストはメールで送信する。受験者各位が印刷すること(カラー印刷が望ましい)。
- 受講資格は資格審査合格者のみとする。

- 資格審査合格者は合同講義に必ず参加すること。
参加しない者は筆記試験の受験を認めない。

11. 筆記試験

1) 試験実施要項

- 筆記試験: マークシート形式の一般問題と臨床問題でカリキュラムの全範囲から(12 頁のカリキュラム参照)出題する。小論文記述問題も出題する。

2) 合否判定と発表

- 合否の判定は筆記試験(60 点以上)、面接の結果を総合して判定する。
- 結果はメールおよび文書で通知する。
- 合格者には認定証を発行する。
- 教育セミナーを受講しなかった者は仮登録とし、認定証は発行しない(2026 年 6 月の第 39 回 学術総会時の教育セミナー受講者を除く)。
セミナー受講後に認定証を発行する。
- 認定試験合格者は、原則として、日本自己血輸血学会ホームページに施設名を掲載する。

12. 認定証の授与

- 受験者が提出したレターパックライトで郵送する。

13-1. 申請書類のアップロードに関する補足説明

● アップロード先

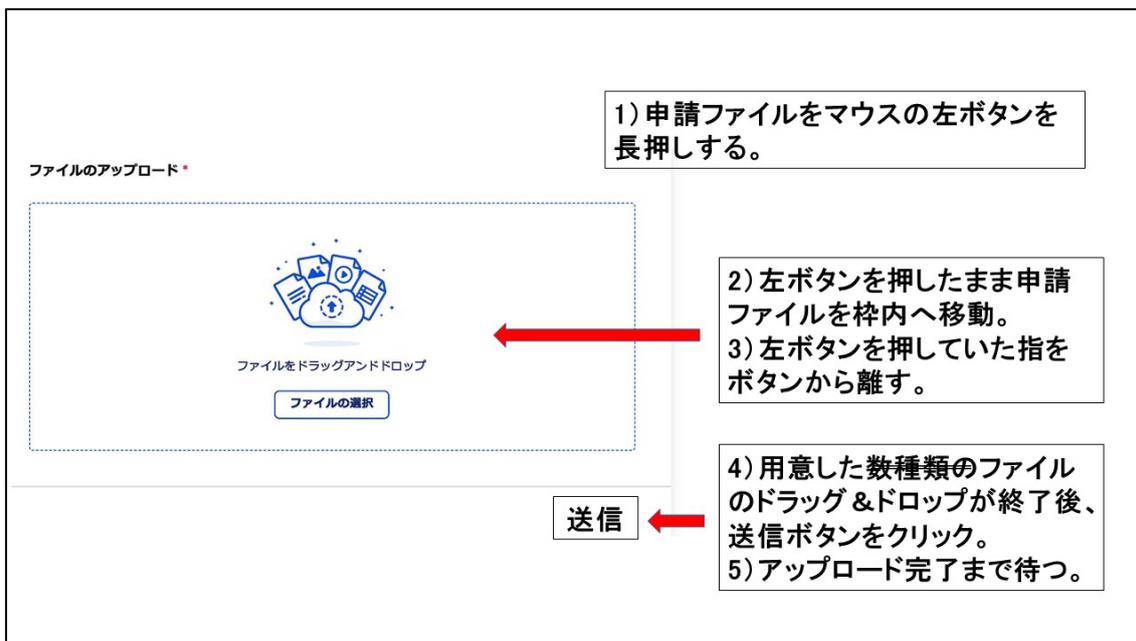
日本自己血輸血学会ファイル登録サイトは以下の URL 又は QR コードのどちらかからアクセスする。

<https://app.box.com/f/9e74d3013b1b43c9bc71034a89bace96>



● アップロードの方法

- 1) 上記アップロード先を開く。
- 2) 申請書類様式 1(ワード)のままマウスの左側のボタンをクリック(長押し)する。
- 3) 左ボタンを押したままカーソルを動かし、ファイルをドロップ画面に移動する(ドラッグ)。
- 4) 左側のボタンから指を離す(ドロップ)。
- 5) 右下の送信ボタンを押す。
- 6) アップロード完了まで、この画面・パソコン本体の電源は切らずに待つ。
- 7) 様式 1 の Web アップロードは 2026 年 3 月 13 日(金)正午～2026 年 5 月 1 日(金) 23 時 59 分の間に行うこと。
- 8) アップロード後 1 週以内に様式 1(顔写真・押印済)及び他の申請書類を郵送すること。



申請書類のアップロード方法

13-2. 申請書類記載上の注意に関する補足説明

1) 申請用紙(様式 1): 電子(PC)入力のこと, 手書きは不可。

- 申請時の6ヶ月以内のカラー顔写真(横3cm×縦4cm)を貼付(Webアップロード時は不要)
- 住所: 都道府県名から記入すること。
- 携帯電話: 必ず記入する(緊急連絡時に必要)。
- メールアドレス: 確実に受信でき、添付ファイルを印刷できる環境のメールアドレスを記載する。
様式1へ記載するメールアドレスは、アップロード後の送信時、Zoomミーティング時、事務局への問い合わせはすべて同一のメールアドレスであること。
(6頁の「7. 受験申請に際してのPC・メールに関する重要注意事項」参照)。
- 部署名: 外来(科名)・病棟(科名)・輸血部・管理部門(職種・職位)などを記載する。
記載例: 1) 看護部(〇〇病棟), 2) 看護部(〇〇外来), 3) 看護部(輸血部), 4) 輸血部(病院雇用でなく輸血部雇用の場合)
- 職歴: 看護師免許取得後の職歴(ローテーション, 転勤, 同一病院内の職場変更等を含む)を記入する。いずれの場合も**最初と最終(現在)の職歴は必須**。
(1) 職歴が5か所以上の場合: 4か所を超えるものは省略する。
(2) 職歴が4か所の場合: すべての職歴を記載する。
(3) 職歴が3か所以内の場合: 退職・休職・助産師学校や大学院などへの進学がある場合も記載のこと。休職・退職・進学は記載漏れが多い⇒**要注意!!!**
- 准看護師および看護助手の職歴: **記載しないこと**。
ただし、准看護師を含まないと臨床経験が2年未満の場合には、准看護師の職歴を追加記載。
- 臨床業務経験・自己血輸血業務経験の入力法
自己血輸血(貯血式・回収式・希釈式)の経験は問わない。自己血輸血・病室での輸血業務・赤十字血液センターでの自己血輸血の指導・末梢血幹細胞採取などを始める方(予定含む)も対

象とする。

- ・所属施設の年間自己血輸血実施症例数:実施ない場合は「0 例」と入力
- ・申請者の自己血輸血業務経験年数(通算):経験ない場合は「0 年 0 か月」と入力
- ・自己血輸血実施症例数:ない場合は「0 例」と入力
- **申請者の学会会員歴:**日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会への入会の有無を記載する。入会年や会員番号は記載の必要ない。
- 郵送時に様式 1, 様式 2-1~3 を訂正する場合, 二重取消線を使用し訂正印を押すこと。

2) 様式 2-1~2-3: 推薦状: 手書きで自署と押印(様式 2-1 は公印であること)すること。

- 様式 2-1 施設長の推薦書は施設長(施設管理者や理事長または院長)の推薦が必要。押印には公印が必要。理事長や院長が申請する場合は次席(副院長や事務長など)の方の推薦が必要。
- 様式 2-2 所属長の推薦書は看護部長(または代行者)もしくは任命権者の推薦が必要。看護部長が受験する場合は施設長の推薦が必要。看護師長は推薦者としては認められない。
- 様式 2-3 自己血輸血担当医師の推薦書
自己血輸血担当医師(あるいは学会認定・自己血輸血責任医師)の日本自己血輸血学会あるいは日本輸血・細胞治療学会への入会の有無を記載する(入会年や会員番号は記載の必要なし)。

3) 日本自己血輸血学会教育セミナーあるいは自己血輸血医師看護師制度協議会指定セミナー受講証明書の写し:

- 少なくとも 1 部必要
- 日本自己血輸血学会理事長印や自己血輸血医師看護師制度協議会会長印のない受講証明書は認められない。合同輸血療法委員会や日本輸血・細胞治療学会支部例会の参加証明書は認めない。
- 受講証明書を保有していない方は 2026 年 6 月 12-13 日に開催される第 39 回学術総会時の教育セミナー(オンデマンド配信の視聴を含む。)を受講すれば受講証明書を保有しているものとみなす(フォーラム受講後の証明書の郵送は不要)。
学術総会時の教育セミナー受講予定の場合, 「第 39 回学術総会時の教育セミナー受講予定」と記載した A4 文書の提出が必要(書式は任意, 施設名と氏名を記載すること)。

4) 看護師免許証のコピー

- 結婚・離婚などで改姓あるいは紛失などで裏面に記載がある場合は**裏面のコピーも必要。**

5) 准看護師免許証のコピー

- 原則として提出する必要はない。
- 准看護師の経験を含まないと臨床経験が 2 年に達しない場合のみ提出のこと。

6) 受験申請費用 1 万円振込票の写し

- 10,000 円の 振込票の写しを郵送のこと。
- 臨床輸血看護師またはアフエレーシスナース認定取得者は 5,000 円の振込票を郵送のこと。その場合は認定証の写しを郵送する必要がある。

7) 申請方法(5頁参照)

- 申請書類はすべてA4の大きさに統一すること。
A4よりも大きいものは縮小コピーし、小さいものは拡大コピーする。

14. 学会認定・自己血輸血医師看護師制度の趣旨と目的

わが国では輸血部のない施設が多いため、輸血や自己血輸血について必ずしも十分な教育を受けているとはいえない看護師あるいは研修医が自己血採血を行うことが多いと考えられている。同種血輸血の安全性が劇的に向上してきた今、自己血輸血について教育を受けた**医師と看護師が共同**で採血時の細菌汚染や血管迷走神経反応などの危険性を回避し、適切な採血を行うことが重要である。保管に際しても**医師と看護師と臨床検査技師が共同**で実施することが必要である。

2008年10月に日本自己血輸血学会と日本輸血・細胞治療学会は日本赤十字社の協力を得て、学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会を設立した。そして、2009年3月に第1回認定試験を開始した。

- 学会認定・自己血輸血医師看護師制度の目的は適正で安全な自己血輸血を推進する看護師の育成であるが、認定取得後には、自己血輸血のみならず臨床(ベッドサイド)の輸血においても各施設において指導的な役割を果たすことが望まれる。

15. 自己血輸血担当医師

学会認定・自己血輸血医師看護師制度では看護師だけに責務を負わせるのではなく、自己血輸血担当医師の存在を必須としている。条件を満たした担当医師がいない場合には、看護師は受験申請できないので注意のこと。

● 自己血輸血看護師認定試験申請のための自己血輸血担当医師の必要条件:

以下の5条件をすべて満たすことが必要

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">日本自己血輸血学会または日本輸血・細胞治療学会の会員であること。貯血式自己血輸血実施基準(貯血式ガイドライン 2025)を遵守すること。自己血輸血の適応を決定すること。採血日の患者の全身状態チェックと自己血採血の可否を決定すること(自己血採血の可否の決定は自己血輸血担当医師が指導する医師が行ってもよい)。自己血輸血に関する事項(採血方法, エリスロポエチンの適応, 合併症対策, 保管管理など)を管理し, 看護師を教育・指導すること。 |
|--|

備考:2014年(平成26年)4月以降に認定を取得した「学会認定・自己血輸血責任医師」は上記の条件を満たしているものとみなす。

16. カリキュラム

- **輸血療法の考え方と各科の輸血:**輸血の考え方, 内科の輸血, 外科の輸血, 細胞治療
- **血液製剤の種類, 管理, 供給:**種類と使用目的, 保管管理と払い出し
- **輸血の実際:**
輸血に必要な器材と使用上のポイント, 輸血手順・手技・患者ケア, 輸血副作用と対応・予防策, 輸血実施における看護上のポイント, 輸血とリスクマネジメント
- **自己血輸血**
目的と適応, 利点と欠点, 貯血式自己血輸血に必要な器材, 方法(消毒, 穿刺, 貯血, 輸液, 等), エリスロポエチンの使い方, 自己血輸血副作用と対応(救急医薬品の使用を含む), 自己血貯血における看護師の役割, クリニカルパスの有用性, 自己血採血と看護師制度の法的側面
- **アフレーシス:**種類, 実際の方法, 副作用とトラブル, 看護師の役割
- **血液事業:**献血の仕組み, 成分採血と副作用, 医薬情報
- **輸血に関する倫理と法制度**
インフォームドコンセント, 宗教と輸血, 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律, 医薬品医療機器等法, 被害救済制度

17. 必須指定参考書および関連文献

認定試験受験者は以下の 4 冊の必須参考書を必ず認定試験前に入手し(各自別個に)自宅学習しなければならない。実践・輸血マニュアルは改訂中なので, 必須参考書からは除外とする。

1) 必須参考書

著者名	書籍名	発行者	価格
脇本信博 編・著	実践・輸血マニュアル —自己血輸血から輸血療法全般の理解を求めて—	医薬ジャーナル社	3,780 円(特別価格: 2,500 円, 送料含む)
日本自己血輸血学会 (監修:脇本信博)	貯血式自己血輸血の概要と実際(改訂第 3 版)	日本自己血輸血学会	1,000 円(送料含む)
日本赤十字社	「輸血療法の実施に関する指針」 令和 2 年 3 月一部改正	日本赤十字社	赤十字血液センターから無料で入手可能
日本赤十字社	「血液製剤の使用指針」 平成 31 年 3 月	日本赤十字社	赤十字血液センターから無料で入手可能
日本赤十字社	「輸血用血液製剤 取り扱いマニュアル 2025 年 8 月改訂版」	日本赤十字社	赤十字血液センターから無料で入手可能

● 注意 1:

「実践・輸血マニュアル」と「貯血式自己血輸血の概要と実際」の購入方法

日本自己血輸血学会ホームページの「書籍購入サイト」から購入すること(書店では販売していない)。

<http://www.jsat.jp/jsat_web/down_load/syosekikounyu_site.html>

~~ホームページから購入する場合、「実践・輸血マニュアル」(定価 3,780 円)は特別価格 2,500 円(送料含む)(銀行の振込手数料は各自負担)で購入できます。~~

「貯血式自己血輸血の概要と実際」は 1,000 円(送料含む)(銀行の振込手数料は各自負担)で購入できる。

● 注意 2:

「輸血療法の実施に関する指針」と「血液製剤の使用指針」および「輸血用血液製剤 取り扱いマニュアル」は院内の輸血部門を通じて赤十字血液センターから無料で入手可能。

2) 参考とすべき文献

- 日本輸血・細胞治療学会誌: 日本輸血・細胞治療学会ホームページの学会誌のサイトから閲覧可能
- 自己血輸血(日本自己血輸血学会会誌): 日本自己血輸血学会ホームページの会員サイトから閲覧可能

輸血副作用

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
日本輸血細胞治療学会誌	第 53 巻 第 3 号	374-382	藤井 康彦, 他	ABO 型不適合輸血の発生原因による解析
日本輸血細胞治療学会誌	第 54 巻 第 3 号	359-371	高橋 雅彦, 他	輸血用血液の細菌汚染と敗血症
日本輸血細胞治療学会誌	第 54 巻 第 3 号	406-410	藤井 康彦, 他	重篤な急性輸血副作用に関する多施設共同研究

貯血式

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第 15 巻 第 1 号	1-4	内田 立身	自己血輸血と鉄
自己血輸血	第 15 巻 第 2 号	129-137	比留間 潔	同種血および自己血輸血における保存前白血球除去の意義
自己血輸血	第 17 巻 第 1 号	1-4	佐竹正 博	自己血の細菌汚染防止について
自己血輸血	第 17 巻 第 2 号	117-120	藤田 浩, 他	自己血採血と検査採血時の血管迷走神経反応 VVR の比較検討
自己血輸血	第 18 巻 第 1 号	114-132	脇本 信博	貯血式自己血輸血ガイドライン作成に向けての検討課題—わが国と欧米のガイドラインの比較検討から—
自己血輸血	第 18 巻 第 2 号	228-241	脇本 信博	自己血輸血に関する Q&A—第 1 報—

自己血輸血	第 19 卷 第 2 号	207-216	脇本 信博 面川 進	日本自己血輸血学会・貯血式自己血輸血実施基準(2007)作成に当って
-------	-----------------	---------	---------------	------------------------------------

自己血輸血	第 20 卷 第 1 号	10-34	佐川 公矯 面川 進 古川 良尚	自己血輸血の指針 改訂版(案)
-------	-----------------	-------	------------------------	-----------------

回収式・希釈式

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第 18 卷 第 2 号	217-221	富士 武史	整形外科における回収式自己血輸血の現状と今後
自己血輸血	第 18 卷 第 2 号	222-227	小堀 正雄	初心者が実施するための「希釈式自己血輸血のガイドライン作成に向けての試み」
自己血輸血	第 19 卷 第 2 号	167-172	小堀 正雄	希釈式自己血輸血に何が課せられているのか
自己血輸血	第 20 卷 第 2 号	215-222	面川 進	希釈式及び回収式自己血輸血の現状と問題点について

その他

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第 19 卷 第 1 号	34-39	面川 進	献血状況 —特にドナーフェレシスについて—
自己血輸血	第 19 卷 第 2 号	149-152	平沼 高明	看護師の採血に関する法律的な問題点
自己血輸血	第 21 卷 第 2 号	124-133	脇本 信博	自己血輸血看護師制度設立に向けて